

みんなで考えよう認知症のこと

図2 長浜市における要介護認定の理由

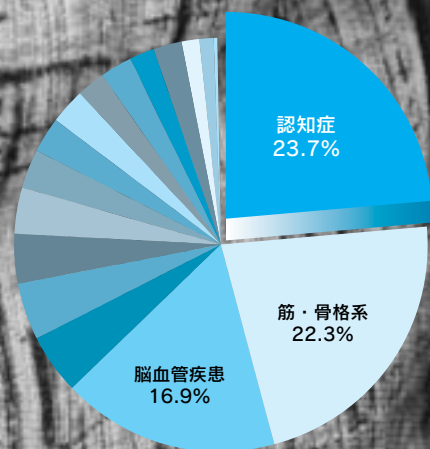


図1 認知症高齢者数の現状と将来推計



厚生労働省

「認知症なんて、関係ない。」世の中の大半の人がそう考えているのではないのでしょうか？確かに学生や若い人、身近に高齢者がいない人は普段認知症を意識することは無いでしょう。

しかし、二〇一〇年に二〇五万人となった認知症者の数は、二〇一五年までに二五〇万人、二〇二五年には三二三万人になると予測されています。（図一）

長浜市においても要介護認定を受けている人の25%近くが認知症の診断を受けており、認定の主たる理由となっています。（図二）

高齢になるにつれ、認知症になる割合は高くなり、80歳以上で7人に1人、85歳以上では3人4人に1人が認知症であるとされています。

たとえ現在、認知症を身近に感じられなくとも、そう遠くない将来、真剣に向き合う必要が出てくるのではないのでしょうか。認知症は限られた人だけに関係する問題ではないのです。

だからこそ、みんなが正しい知識を持つことが大切です。家族と、周囲の人の支えがあれば、認知症になっても自分らしく生き生きと過ごすことができるのです。

誰もが住み慣れたまちで、安心して暮らしていくために、みんなで考えましょう、認知症のこと。

こころをひとつに

～復興へ 長浜のお手伝い～

1000年に一度の大災害をもたらした東日本大震災。その大きな爪痕からの復興には、長い時間とたくさんの支援が必要です。そんな中、震災発生時から多くの皆さんが「こころをひとつ」にして、被災地への支援活動を行っています。その活動の一部を紹介します。



▲マスコット制作の様子（長浜北中学校）

ロバのマスコットを届けます！

長浜北中学校と長浜北星高校で「認知症啓発のためのロバのマスコット」の制作が行われました。

これは、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県の南三陸町が、復興をめざす中で、自分たちも何かお手伝いができないかと考え、始めたものです。

南三陸町は以前から「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を進めており、住民の1割以上が「認知症サポーター養成講座」を受けています。長浜市はそんな取り組みをお手本にしようと、宮城県を通じて交流を続けてきました。

震災からの復興のため、人と人とのつながりを大切に奮闘する南三陸町の皆さんを応援する気持ちを込めて、マスコットを届ける予定です。

広報 ながはま

平成23年 9月1日号

Contents

■特集 みんなで考えよう認知症のこと	3～7 P
■保育園・幼稚園等の園児募集	8・9 P
■原子力の安全対策	10 P
■アートインナガハマなど	11 P
■広告募集、市有地売却	12・13 P
■ほつとにゅ～す	14・15 P
■公共交通／みどりいっぱいなど	16・17 P
■市政の動き、就職面接会など／市議会、市長コラム	18・19 P
■健康／人権、景観	20・21 P
■多文化共生、消費生活相談／文化財	22・23 P
■ぶんスポちゃんねるなど	24・25 P
■インフォメーション	26・27 P
■裏表紙 ながはま百景、SMILE	28 P

今月の表紙

認知症啓発のためのマスコット「ロバ隊長」

認知症啓発のために活動する「認知症サポーターキャラバン」。その隊長として先頭を行くのがこの「ロバ隊長」です。

「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」のため、急ぐことなく、ロバのように1歩1歩着実に進んでいく決意を表しています。

また、温かさを感じさせるオレンジ色は「手助けします」という意味を持つと言われています。

このユニークなオレンジ色のロバを見たら、「認知症」のことを思い出し、「自分にできることは何か？」と少し意識していただければ嬉しいです。